

「積極果敢」

～明るい豊かな社会実現への挑戦～

2012年度理事長 熊木幸治

震災復興元年といわれた2012年。まずは、61名という県内1位のメンバー数を有し、また日本青年会議所の会務担当常任理事を輩出するという、組織的には非常に恵まれた環境の中で本年の運動をスタートすることが出来たのは、これまでの31年の歴史を築いてくださった諸先輩方をはじめ、メンバーも含め多くの方々のご協力の賜物であると考えます。心より感謝申し上げます。我々の活動エリアである浦安市においては、東日本大震災による大規模な液状化被害からの応急復旧がようやく完了し、これからの本格的な復興へ向けて歩みをはじめたばかりの状況でした。また、震災後という新しい時代に突入した2012年、復興という大きな課題を抱えるこの地域において、また地域住民のニーズや価値観が多様化する中で、浦安青年会議所として何を発信していくべきなのか、価値ある運動を展開していくにはどうすればいいのか、理事長という立場で組織を動かす難しさを痛感した1年でありました。

しかしながら、どのような状況であろうとも青年会議所は、「明るい豊かな社会」を築きあげるため市民意識変革運動を推進する団体でなければなりません。昨年の震災時においては、多くの市民、近隣地域の方々が、「誰かの役に立ちたい」「困っている人を助けたい」という無垢な心で率先してボランティア活動に取り組んでいる姿を目の当たりにしました。本年度のまちづくり事業は、この力をまちづくり運動に向ける事に焦点をあて、積極的に社会参画し、実践できるフィールドを提供することで、市民による市民主体のまちづくり事業を開催致しました。4月第一例会のうらやすまちづくりサポーターズの募集、まちづくり講演会にはじまり、多くの回数を重ねたミーティングなど、10月事業企画・運営・実施に至るまでのプロセスは、本年度のスローガンである「積極果敢～明るい豊かな社会実現への挑戦～」を具現化し、市民意識変革に大きく寄与できた事業であると確信しています。

青少年健全育成事業においては、「親子の絆」「思いやりの心」をテーマに開催致しました。2ヶ月に渡る「親子みつめ愛プロジェクト」では、親子が見つめあう機会を創出することで、思いやりの心を醸成し、改めて親子の絆の大切さを伝えることができた事業であったと考えます。集大成である8月第一例会では、「OMOIYARIのうた」を子ども達が藤田恵美氏とともに市民の皆様披露させて頂き、1500枚の家族写真や親子写真を市民の皆様から集め、モザイクアートを製作し市民の皆様へ発信させて頂き、笑顔と思い

やりを届けることができました。

3回にわたり開催した研修事業では、「イノベーション」をキーワードに、JCメンバーであると同時に、青年経済人であることを意識した事業を開催しました。まずは、伝える力を養う為に「プレゼンテーション」能力を磨き、次に発想の転換いわゆる「イノベーション」によって、企業が成功した事例を紹介しながら、ホワイトスペースと言うビジネスモデルにおける新しい考え方を学び、集大成である9月第一例会においては、「女性力」をテーマに、様々な場面でご活躍されている4名の女性経営者・団体代表の方々から女性が活躍できる環境の必要性について気付きを得ることが出来たと考えます。本年はLOM内においても、女性メンバーのみで構成する委員会を立ち上げました。「人を惹きつける接遇力」と題し、社会人マナーから魅力ある笑顔の作り方まで、女性メンバーならではの例会を開催し、会員拡大活動における第一印象の重要性を学ぶことができました。

さて、こうして1年を振り返ると、理事長を務めることがどれだけ大変なことなのかを痛感し、理事長としての自身はもちろんのこと、今までの一会員としても反省すべきことが幾多とありました。しかしながら、メンバーの皆様に支えられ1年間無事に終えることができ、今は感謝の言葉しか見つかりません。本当にありがとうございました。

また本年は、日本青年会議所や千葉ブロック協議会への出向も多く輩出し、メンバーの皆様には多くの苦勞とご負担をおかけしたことに對しお詫びを申し上げるとともに、ご協力とご理解を賜り、改めて感謝申し上げます。

結びに、高梨理事長率いる2013年度の浦安青年会議所が、記憶に残る輝かしい1年となります事をご祈念申し上げ、2012年度事業報告とさせていただきます。